

令和3年 10月4日	農作物病虫害発生予報 10月	山口県病虫害防除所 山口県農林総合技術センター
---------------	---------------------------------	----------------------------

～目 次～

I	予報の概要	1
II	予報	
	【主要病虫害】	2
	【その他の病虫害】	10
III	参考(予報の見方、気象予報)	11

I 予報の概要

作物名	病虫害名	予想発生量	現 況	
			平年比	前年比
カンキツ	かいよう病	平年並	平年並	前年並
	ミカンハダニ	やや少	やや少	前年並
キャベツ	コナガ	多	多	多
イチゴ	うどんこ病	平年並	平年並	多
	アブラムシ類	平年並	平年並	前年並
	ハダニ類	やや多	やや多	少
野菜全般	ハスモンヨトウ	平年並	平年並	多
	オオタバコガ	平年並	平年並	前年並

お問い合わせ先

TEL (083) 927-4006

FAX (083) 927-0214

E-mail a172011@pref.yamaguchi.lg.jp

カンキツ

1 かいよう病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	台風の襲来前

(2) 予報の根拠

ア 下旬の巡回調査では、発生ほ場率10.5%(平年9.5%)、発病果率1.1%(平年0.8%)、発病度0.3(平年0.4)で平年並みであった(±)。

イ 気象予報では、10月の降水量はほぼ平年並み(±)。

(3) 防除対策

<防除判断>

発生が見られるほ場や、あまなつ、いよかん等発病しやすい品種では、台風の襲来前に防除を実施する。

事前に防除ができなかった場合は、台風通過後、すぐに防除を実施する。

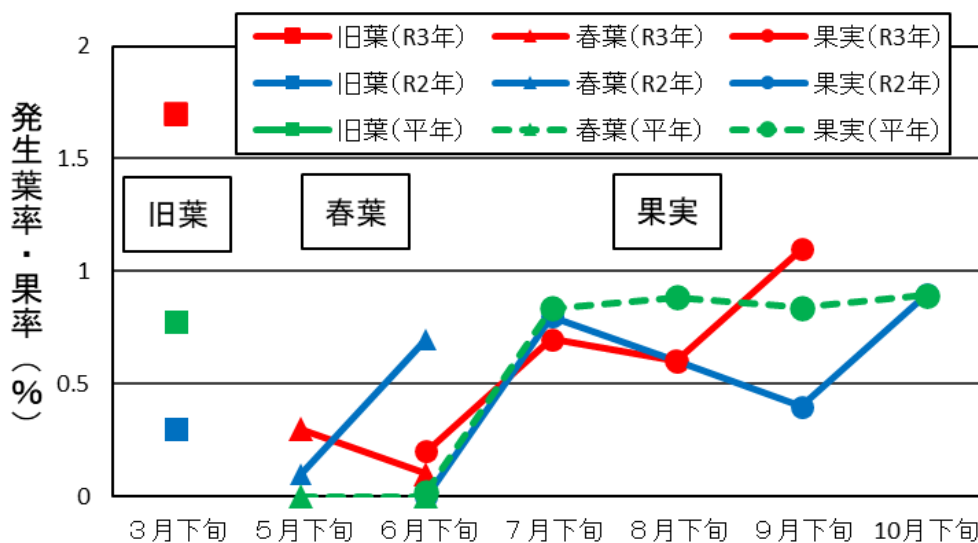
<耕種的防除等>

ア 秋に形成された病斑(潜伏病斑を含む)は、翌年の有力な伝染源となるので、本病の発生しやすい夏秋梢はできるだけ除去する。

イ 防風樹や防風ネットを整備し、枝葉や果実への感染を防ぐ。

<防除のポイント>

温州みかんなどかいよう病に比較的強い品種でも、伝染源が近くにある場合には多発することがあるので注意する。



カンキツかいよう病の発生推移

2 ミカンハダニ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや少	やや少	前年並	雌成虫の寄生葉率30~40%以上、または、雌成虫1葉当たり0.5~1頭以上

(2) 予報の根拠

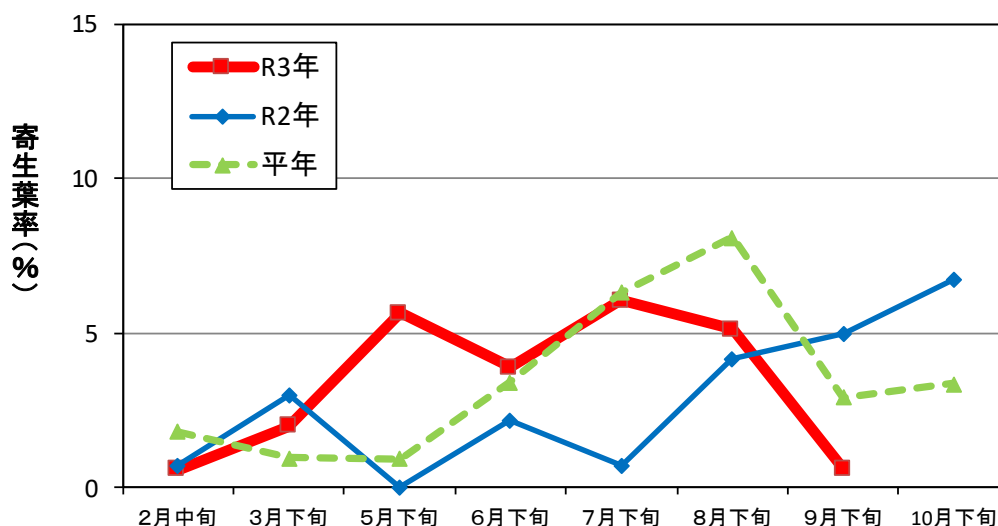
ア 下旬の巡回調査では、発生ほ場率10.5%（平年18.0%）、寄生葉率0.6%（平年2.9%）で平年に比べやや少なかった（-）。

イ 気象予報では、10月の気温は高く、降水量はほぼ平年並み（+）

(3) 防除対策

<防除のポイント>

こまめにほ場を見回り、収穫期まで多発させないようにする。



ミカンハダニの発生推移

キャベツ

1 コナガ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
多	多	多	若齢幼虫期

(2) 予報の根拠

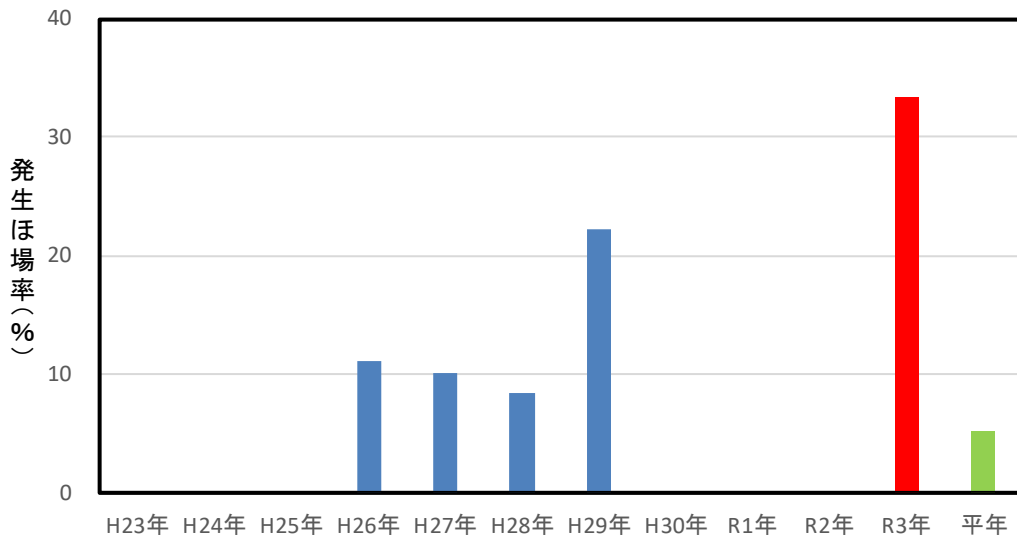
ア 下旬の巡回調査では、発生ほ場率33.3%（平年8.0%）、10株当たり虫数0.4頭（平年0.1頭）で平年に比べ多かった（+）。

イ 気象予報では、10月の気温は高く、降水量はほぼ平年並み（+）。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



キャベツ コナガ発生ほ場率(9月下旬巡回調査)

イチゴ

1 うどんこ病

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	多	発病前または発病初期

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、発生ほ場率6.7%（平年11.0%）、発病株率0.8%（平年2.0%）、発病葉率0.3%（平年0.8%）で平年並みであった（±）。

(3) 防除対策

<耕種的防除等>

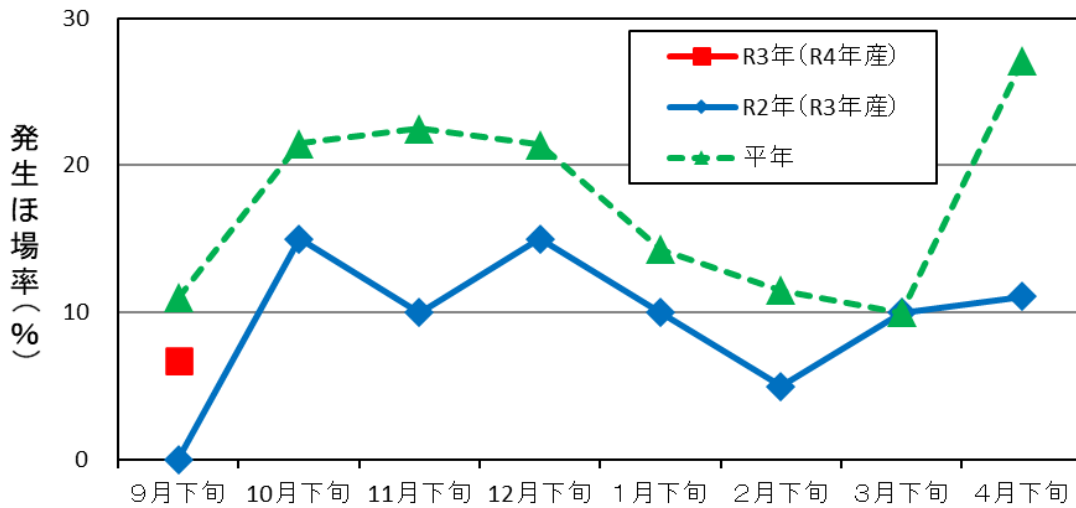
被害茎葉は伝染源となるので、施設外に持ち出し処分する。

<防除のポイント>

ア 本病は、発病初期には葉裏に発生しやすいため、葉裏をよく確認し、早期発見に努める。

イ 予防防除と発病初期の防除に重点をおき、薬液が葉裏や新芽にも十分かかるよう、古葉を除去して丁寧に散布する。

ウ 薬剤耐性の発達を防ぐため、同一系統薬剤の連用は避ける。



イチゴうどんこ病の発生推移

2 アブラムシ類

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発生初期

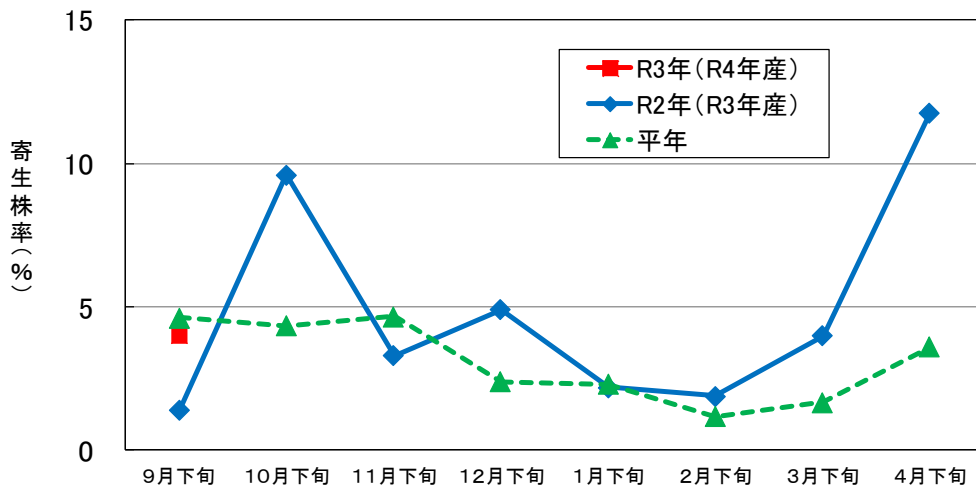
(2) 予報の根拠

- ア 下旬の巡回調査では、発生ほ場率33.3%（平年26.4%）、寄生株率4.0%（平年4.6%）で平年並みであった（±）。
- イ 山口市大内の黄色水盤トラップによる9月の誘殺数は、430頭（平年309頭）で平年に比べやや多かった（+）。
- ウ 気象予報では、10月の気温は高い（+）。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

- ア 薬剤散布時は、薬液が葉裏までムラなくかかるよう散布する。
- イ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



イチゴ アブラムシ類の発生推移

3 ハダニ類

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
やや多	やや多	少	発生初期

(2) 予報の根拠

ア 下旬の巡回調査では、発生ほ場率46.7%（平年17.5%）、寄生株率8.4%（平年5.1%）で平年に比べやや多かった（+）。

イ 気象予報では、10月の気温は高い（+）。

(3) 防除対策

<防除のポイント>

ア 摘除した下葉を紙袋に入れて1日保管すると、ハダニ類は袋の上方に移動するため、容易に確認できる。発生を認めたら直ちに防除を行う。

イ 下葉の裏に多く寄生しているのので、不要な下葉を除去した後、薬剤を丁寧に散布する。

ウ 化学農薬に対する抵抗性の発達が認められているため、散布後に効果を確認し、十分な効果が認められない場合は、気門封鎖剤を中心に防除を行う。

エ 気門封鎖剤の多くは卵には効果がないため、7～10日後にもう一回散布する。

オ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統薬剤の連用は避ける。

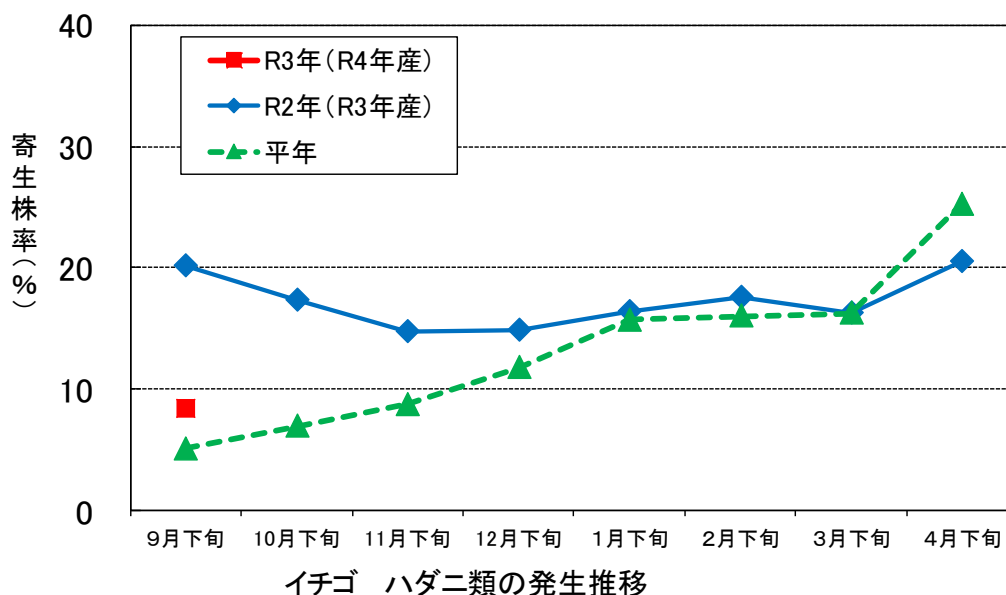
カ 天敵（ミヤコカブリダニ）は次のことに注意して使用する。

（ア）ハダニの発生前または発生初期に放飼する。

（イ）すでにハダニが発生している場合は、天敵を放飼した後に、天敵に影響の少ない薬剤（マイトコーネ剤、ダニサラバ剤、スターマイト剤等）で防除する。

（ウ）硫黄のくん煙は1日2時間程度とする。

キ 開花期以降は、ミツバチに影響の少ない薬剤を使用する。



野菜全般

1 ハスモンヨトウ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	多	発生初期（若齢幼虫期）

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、キャベツでの発生ほ場率50.0%（平年29.1%）、寄生株率4.3%（平年1.6%）で平年に比べやや多かった。また、イチゴでは、発生ほ場率20.0%（平年11.6%）、寄生株率0.4%（平年0.4%）で平年並みであった（+）。

イ 山口市大内のフェロモントラップによる9月の誘殺数は、2,633頭（平年3,499頭）で平年並みであった（±）。

ウ 気象予報では、10月の気温は高く、降水量はほぼ平年並み（+）。

(3) 防除対策

<防除判断>

地域により発生時期・発生量にばらつきがあるので、定期的にはほ場を観察し、必要に応じて防除を実施する。

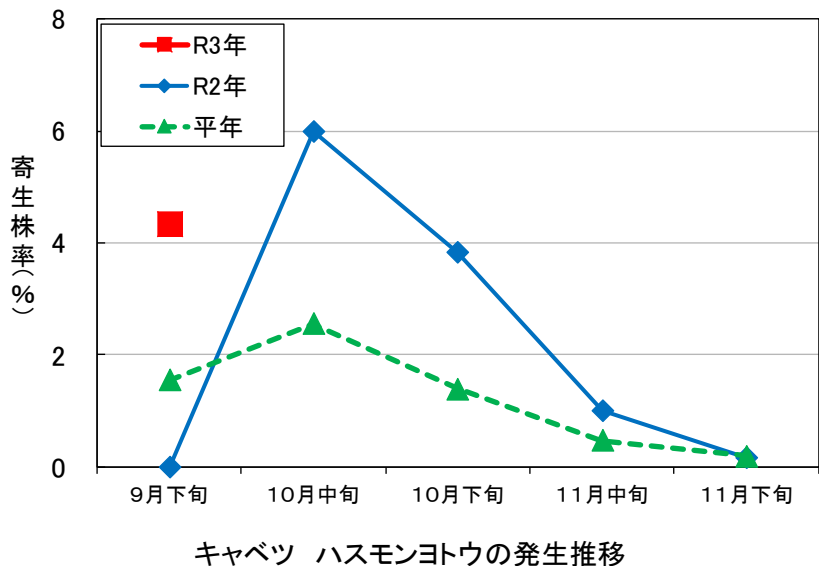
<防除のポイント>

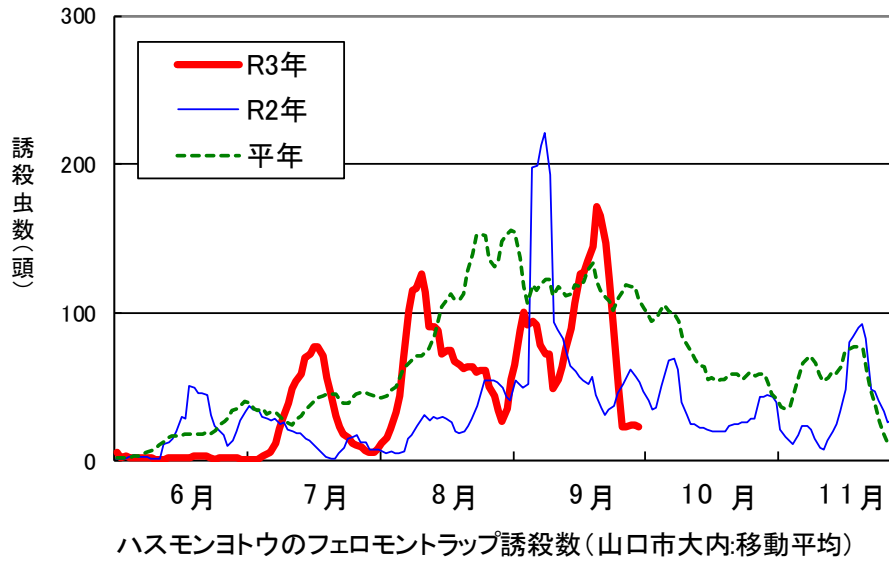
ア 卵塊や若齢幼虫が集団で食害している葉を探し、捕殺する。

イ イチゴ等の施設栽培では、鉄骨パイプや天井ビニール等に産卵することが多いので、黄褐色の毛に覆われた卵塊を見つけたら直ちに捕殺する。

ウ 若齢幼虫期の防除を徹底する。

エ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。





2 オオタバコガ

(1) 予報内容

予想発生量	現 況		防除時期
	平年比	前年比	
平年並	平年並	前年並	発生初期 (若齢幼虫期)

(2) 予報の根拠

ア 9月下旬の巡回調査では、キャベツでの発生ほ場率0% (平年5.0%)、寄生株率0% (平年0.1%) で平年並みであった (±)。

イ 山口市大内のフェロモントラップによる9月の誘殺数は、25頭(平年96頭)で平年並みであった (±)。

ウ 気象予報では、10月の気温は高く、降水量はほぼ平年並み (+)。

(3) 防除対策

<防除判断>

野菜の定植時期により発生時期が異なるため、ほ場の発生状況を確認する。

<耕種的防除等>

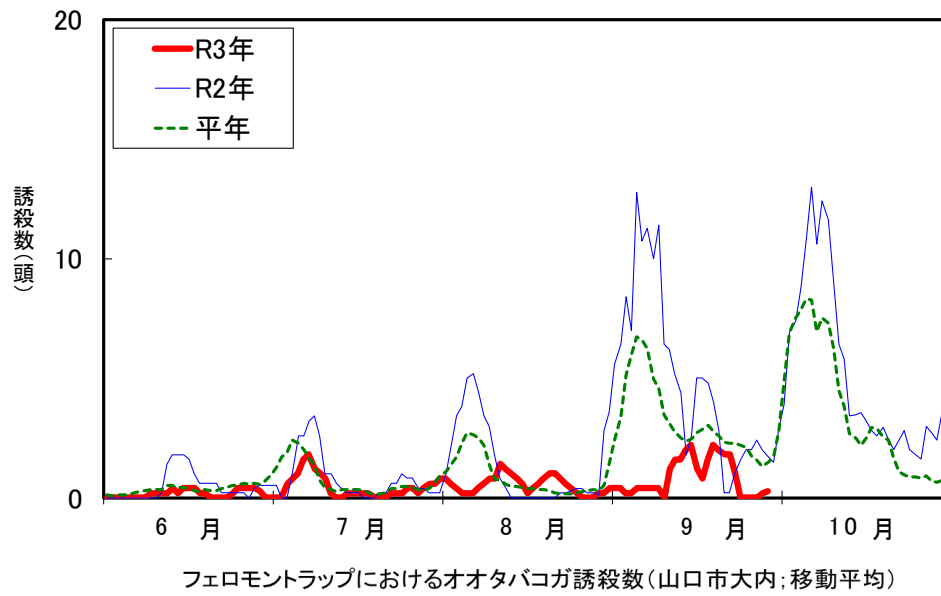
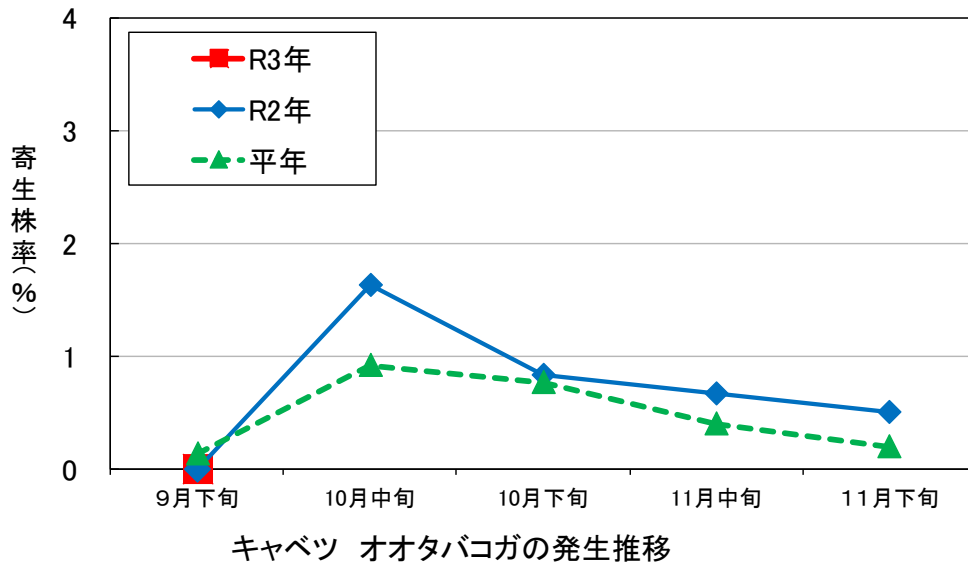
定期的にはほ場を観察して早期発見に努め、幼虫を見つけ次第捕殺する。

<防除のポイント>

ア 生長点を食害されると被害が大きいため、生育初期の薬剤散布を徹底する。

イ 中齢以上になると内部に潜入し、薬剤がかかりにくくなるため、発生初期 (若齢幼虫期) に防除を徹底する。

ウ 薬剤抵抗性を発達させないため、同一系統の薬剤の連用は避ける。



【その他の病害虫】

作物名	病害虫名	予想 発生量	現況		発生ほ場率		備考
			平年比	前年比	本年 (%)	平年 (%)	
キャベツ	ハイマダ ラノメイ ガ	平年並	平年並	前年並	0	0.8	
	ウワバ類	やや多	やや多	多	16.7	2.7	
	ヨトウガ	平年並	平年並	前年並	16.7	2.8	
	シロイチ モジヨト ウ	平年並	平年並	少	0	6.5	山口市のフェロモントラップによる9月の誘殺数は、平年に比べやや少なかった。

Ⅲ 参考

1 予報の見方

(1) 病虫害発生量の基準（原則として過去10年間の発生量と比較）

ア 平年比

多	過去10年間で最も多かった年と同程度以上の発生
少	〃 で最も少なかった年と同程度以下の発生
やや多	〃 で2～3番目に多かった年と同程度の発生
やや少	〃 で2～3番目に少なかった年と同程度の発生
平年並	〃 で標準的にみられた発生（上記4項目を除くもの）

注：過去の発生量との比較を表わすもので、被害や防除の必要性とは異なる）

イ 前年比

多	平年比の5段階評価で区分し、前年の評価より多い発生
少	〃 前年の評価より少ない発生
前年並	〃 前年の評価と同等の発生（上記2項目を除くもの）

(2) 病虫害発生時期の基準（原則として過去10年間の発生時期と比較）

早 い	過去10年間の平均値より6日以上早い
遅 い	〃 より6日以上遅い
やや早い	〃 より3～5日早い
やや遅い	〃 より3～5日遅い
平年並	〃 を中心として前後2日以内

(3) 予報根拠における発生要因の評価基準

+	発生を助長する要因
±	発生の助長及び抑制に影響の少ない要因
-	発生を抑制する要因

2 気象予報

(1) 概要

1か月気象予報（9月30日福岡管区气象台発表）

予 報	低 い (%) 少 ない	平年並 (%)	高 い (%) 多 い
気 温	1 0	2 0	7 0
降 水 量	4 0	3 0	3 0
日 照 時 間	3 0	3 0	4 0

週ごとの気温傾向

予 報	低 い (%)	平年並 (%)	高 い (%)
1 週 目	1 0	1 0	8 0
2 週 目	1 0	2 0	7 0
3～4 週 目	2 0	3 0	5 0